























































史跡 大学寮勸学院田址

昭和四十一年七月指定
南砺市指定文化財

この高瀬地区一帯には勸学院・神子畑・堂角窪などの小宇が残り、平安時代の「延喜大学式」にみられる砺波郡墾田地十八町余りの大学寮勸学院田があったとされる。勸学院の収益は官吏を養成する学生の食費にあてられた。ここは以前に県の文化財となったが、確証が充分でないとして、その後、指定解除となった。

また、神仏習合の時代に高瀬神社の神宮寺として真言宗深法寺があり、その勸学院僧を祀られた塚があったともいわれている。

古くから数々の伝承があるこの地には、松葉が三本に分かれた三鉦松が生えるといわれている。

昭和四十一年、町文化財に指定され、平成十四年には再整備が行われ、地元民によって大切に受け継がれている。

平成十四年十二月

南砺市教育委員会



